



ばうちずもの授けやう（重要文化財）

天草 文禄2年(1593)頃刊 1冊

縦26cm 横17cm

キリスト教布教のため、イエズス会は活字印刷機を日本へ搬入、天正十九年（一五九一）から二十数年間、様々な書物を出版した。それ等をキリシタン版と呼ぶ。

本書は文禄二年（一五九三）頃、天草で刊行されたキリシタン版で、表紙・扉等を欠き原書名は不明。本文冒頭の「ばうちずもの授けやう」が書名とされているが、これは内容の一部にすぎず、研究者により「どちりな・きりしたん」「病者を扶くる心得」等さまざまに呼ばれる。

弾圧で司祭の活動が困難な中、特に臨終の人に「ばうち

ずも（洗礼）」と「ぺにてんしゃ

かたよひをうちすまのけりしあんとこのうらやまを

（ゆるしの秘跡）」が必要な場合、司祭不在でも一般信者がそれらを正しく行えるよう、意義や手順を説いた手引書である。

「ばうちずも」と「ぺにてんしゃ」、キリシタンはこの二つが、人間の罪科を許される道であると教えられた。最期に罪を真に後悔し、告白と償いの心へ至るよう、いかに扶け導くか、心得が記されている。

本書は国字の金属活字版として是最初期のもの。連綿体の活字化はキリシタン版に始

まるが、文中では二字を連続させて一つの活字とした「給ふ」「たる」が確認できる。

掲出書は巡察師ヴァリニャーノからエボラの大司教へ贈られ、その後いくつかの手を経て、昭和初期イギリスから日本へ移り、昭和二十四年当館所蔵となった孤本である。

キリシタン版のほとんどが禁教により焼かれ、現存するもの三十種余。当館はその内七種を有する。布教に命をかけた人々が深い思いを込めた資料である。

（天理図書館 多田裕子）

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>

◆平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）

12月22・23日、27日～31日は閉館。

（本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）